

## 第2回運営委員会議事録

日時：平成18年11月10日（金）

場所：名古屋大学医学部鶴友会館

出席者：主任研究者（浜島信之）、三上春夫、田島和雄、徳留信寛、古野純典、田中恵太郎、嶽崎俊郎、有澤孝吉、橋本修二、江口英孝、玉腰暁子、川戸美由紀、小笹晃太郎、三谷智子、尾崎悦子、鈴木貞夫、桧垣靖樹、原めぐみ、喜多義邦、山本貴子、平木章夫、長谷川和美、中央事務局（若井建志、内藤真理子、西尾和子、石田喜子、岡田理恵子、増井香織、服部秀美、増田まゆ子、水谷恵子） 計31名

### ○中央事務局からの報告

- ・これまで主任研究者が兼務してきた中央事務局長を、若井（名古屋大学大学院医学系研究科・予防医学／医学推計・判断学）に交代することを確認した。
- ・サイト研修・テストラン、研究モニタリング、モニタリング委員会・外部評価委員会の実施状況、および今後の予定が報告された。また名古屋大学医学部倫理審査委員会における、J-MICC研究全体の研究計画、および各コーホート研究実施グループの研究計画の審査状況が報告された。
- ・データ入力、中央事務局へのデータ送付手順、MECASの新バージョンへの移行手順について説明があった。またデータクリーニング案が示され原案通り承認された。
- ・生体試料管理に関して、江口先生より問題点の改善策について、検討結果が報告された。また中央事務局より、事務局での生体試料の受入・保管状況（約5,500名分）、コントロール検体の採取・保管状況、生体試料の中央事務局への送付手順について説明があった。
- ・J-MICC研究の追跡調査手順書にもとづく追跡調査について説明があり、各調査地区の追跡調査の進捗状況について調査することが報告された。これに関して、人口動態統計調査票の目的外利用申請は早急に行う必要があることが指摘された。
- ・広報ツール作成の見通しを立てるため、平成21年度までの広報ツール必要予定部数のアンケートを行うことが報告された。

### ○ J-MICC連合について

- ・主任研究者より、J-MICC連合に関する取り決めの提案があり、検討の結果、承認された。J-MICC連合では「J-MICC Studyと同様な生活歴データおよび血液検体を採取し、がん罹患情報と全死亡を追跡しているコーホート研究であって、5,000人以上のデータを有する研究をJ-MICC Studyに加える」こととした。

### ○当面実施する研究について

- ・主任研究者より当面実施する研究について提案があり、検討の結果、承認された。すなわち1) 生活習慣と検診から得られた生体指標の状況について、平成20年度末

までに中間報告を行うこと、2) J-MICC研究で収集されたDNAと検診結果データの一部を用い、遺伝子環境相互作用を検討する横断研究を行い、平成20年度末までに結果を報告可能にすることとした。各コーホート研究実施グループまたは複数のグループによる個別研究については、研究費の支援を考えていることも主任研究者から報告された。

#### ○研究費について

・主任研究者から、研究協力者の募集に支出している文部科学省からの研究費とは別の文部科学省研究費が、J-MICC研究で収集したバフイーコートからのDNA抽出、遺伝子型決定に使用できるので、遺伝子型決定による個別研究を検討しているコーホート研究実施グループとは、この研究費を使用した共同研究が可能であること、研究費の配分は今後の募集状況により変更の可能性があること、が報告された。

#### ○研究の計画概要、およびコントロール検体の保管管理の論文

・主任研究者より、J-MICC研究の計画概要、およびコントロール検体の保管管理について、中央事務局員と関係者で論文を作成することが提案され、承認された。

#### ○社会的諸問題検討委員会からの報告・要望

社会的諸問題検討委員会（玉腰先生）から、これまでの同委員会での各コーホート研究実施グループの研究計画書等の検討状況、および研究モニタリングの実施状況について説明があり、各コーホート研究実施グループおよび中央事務局に要望が出された。